

(別冊)

地域福祉計画
策定のためのアンケート調査結果

報告書

(分 析 編)

平成18年3月
石巻市

目 次

Ⅱ－２．市の保健福祉情報の入手について	1
5．市の保健福祉情報を必要としたときにすぐに入手できたか	1
6．市の保健福祉情報の入手先	2
7．今後どのような方法で保健福祉情報を入手したいか	3
Ⅱ－３．人権について	4
9．成年後見制度、地域福祉権利擁護事業について	4
11．差別や偏見を感じる機会や場所	6
Ⅱ－４．ボランティアについて	8
13．保健福祉に関連するボランティア活動への関心	8
14．保健福祉に関連するボランティア団体の活動や情報への関心	9
17．これまで経験した活動のきっかけ	10
18．地域活動、ボランティア活動をしない理由	11
Ⅱ－５．安全な暮らしについて	12
19．身の回りの安全対策について	12
20．災害時の避難場所について	13
Ⅱ－６．これからの福祉環境について	14
22．保健や福祉に関する心配事の相談相手、相談先	14
23．今後の福祉の担い手としてふさわしい人、団体	15
24．市の保健福祉施策として重要な取組み	16
Ⅱ－７．地域の暮らしについて	18
25．石巻市は暮らしやすいまちか	18

この分析編は、設問同士を掛け合わせた集計結果（クロス集計）から、特徴的な傾向が表れている結果のみを掲載しています。全体結果報告書とあわせてご覧下さい。

なお、調査の概要は、『地域福祉計画策定のためのアンケート調査結果報告書』をご参照下さい。

Ⅱ－２．市の保健福祉情報の入手について

5. 市の保健福祉情報を必要としたときにすぐに入手できたか (※4. 市の保健福祉情報を必要とした経験が「あった」方)

《クロス集計》暮らしやすさ別×保健福祉情報を必要とした時にすぐに入手できたか

図表 暮らしやすさ別保健福祉情報を必要とした時にすぐに入手できたか

	すぐに 入れる ことが でき た	時間 がか った が、 手 に 入 れ る こ と が で き た	手 に 入 れ る こ と が で き な か っ た	無 回 答
暮らしやすい(とても暮らしやすい まちだと思ふ+どちらかという暮らし やすいまちだと思ふ)(n=155)	44.5%	41.9%	7.7%	5.8%
暮らしにくい(暮らしにくいまちだ と思ふ+どちらかという暮らしにく いまちだと思ふ) (n=88)	28.4%	52.3%	19.3%	0.0%

「暮らしやすい」と感じている方では、保健福祉情報を「すぐに手に入れることができた」方の割合が「暮らしにくい」と感じている方に比べて高くなっています。反対に、「暮らしにくい」と感じている方では、保健福祉情報を「手に入れることができなかった」方の割合が「暮らしやすい」と感じている方に比べて高くなっています。

この結果から、保健福祉情報をすぐに手に入れることができる状態にすることは、「暮らしやすさ」のひとつの指標になることが推測できます。

6. 市の保健福祉情報の入手先

(※4. 市の保健福祉情報を必要とした経験が「あった」方)

《クロス集計》保健福祉情報を必要とした時にすぐに入手できたか別×情報の入手先

図表 保健福祉情報を必要とした時にすぐに入手できたか別情報の入手先

	公的機関の窓口 (市の窓口など)	市報いしのみ	市のホームページ (福祉専門サイト)	社会福祉協議会の 窓口(社協だより)	民生委員・児童委員、 ケアマネジャーなどからの情報	町内会・行政区の 回覧板	町内会・行政区で の寄合(会合)	その他	無回答
すぐに手に入れる ことができた (n=109)	35.8%	22.0%	0.9%	10.1%	21.1%	3.7%	0.9%	4.6%	0.9%
時間がかかった が、手に入れる ことができた (n=124)	29.0%	16.1%	2.4%	8.1%	25.0%	4.8%	0.8%	7.3%	6.5%
手に入れることが できなかった (n=33)	12.1%	27.3%	6.1%	3.0%	3.0%	12.1%	0.0%	21.2%	15.2%

情報を手に入れることができた方の入手先では、公的機関の窓口、市報、民生委員・児童委員・ケアマネジャーなどの割合が高くなっています。しかし、公的機関の窓口や民生委員・児童委員・ケアマネジャーなどは時間がかかる場合も多いことがわかります。一方、情報を手に入れることができなかった方の入手先は、市報、回覧板の割合が高いことから、これらに掲載する保健福祉情報の質も見直す必要があります。(網かけ参照)

7. 今後どのような方法で保健福祉情報を入手したいか

《クロス集計》年齢別×今後どのような方法で保健福祉情報を入手したいか

図表 年齢別今後どのような方法で保健福祉情報を入手したいか

	市報いしのみ	町内会・行政区の 回覧板	公的機関の窓口(市 の窓口など)	社会福祉協議会の 窓口(社協だより)	新聞・雑誌	民生委員・児童委 員、ケアマネジャ ーなどからの情報
16～19歳(n=36)	47.2%	13.9%	16.7%	8.3%	27.8%	0.0%
20～29歳(n=68)	66.2%	23.5%	20.6%	5.9%	36.8%	2.9%
30～39歳(n=105)	70.5%	32.4%	33.3%	9.5%	24.8%	1.9%
40～49歳(n=109)	77.1%	34.9%	32.1%	22.9%	22.0%	11.9%
50～59歳(n=164)	68.9%	45.1%	42.1%	22.6%	10.4%	17.1%
60～64歳(n=81)	80.2%	43.2%	25.9%	27.2%	11.1%	18.5%
65～74歳(n=181)	68.0%	51.9%	27.1%	28.2%	13.8%	27.1%
75歳以上(n=145)	64.1%	47.6%	13.8%	24.1%	11.0%	29.0%

	市のホームページ (福祉専門サイト)	テレビ・ラジオ	インターネットに よる情報配信	町内会・行政区での 寄合い(会合)	その他	無回答
16～19歳(n=36)	16.7%	27.8%	19.4%	0.0%	2.8%	19.4%
20～29歳(n=68)	29.4%	17.6%	29.4%	2.9%	1.5%	7.4%
30～39歳(n=105)	34.3%	7.6%	12.4%	1.0%	1.0%	9.5%
40～49歳(n=109)	21.1%	11.9%	9.2%	0.9%	2.8%	5.5%
50～59歳(n=164)	12.8%	3.0%	4.9%	3.7%	3.0%	5.5%
60～64歳(n=81)	7.4%	9.9%	2.5%	4.9%	0.0%	7.4%
65～74歳(n=181)	5.0%	10.5%	0.6%	5.0%	0.0%	5.5%
75歳以上(n=145)	2.8%	6.2%	0.7%	7.6%	2.1%	9.0%

情報源としての期待について、どの年齢の方も市報の割合が高い一方、町内会・行政区での寄合いの割合は低いことがわかります。

年齢別の傾向として、おおむね40歳代以下では、新聞・雑誌や市のホームページ、インターネットの割合が高く、特に16～19歳の方では、テレビ・ラジオの割合も約3割と高くなっています。また、50歳代以上では、回覧板や社会福祉協議会の窓口、民生委員・児童委員・ケアマネジャーなどへの期待が高いことがわかります。(網かけ参照)

こうした結果も踏まえて、媒体ごとの年齢特性(期待等)にも配慮した情報の質を検討する必要があります。

Ⅱ－３．人権について

9. 成年後見制度、地域福祉権利擁護事業について

《クロス集計》年齢別×成年後見制度、地域福祉権利擁護事業についての認知度

図表 年齢別成年後見制度、地域福祉権利擁護事業の認知度

	制度の内容まで知っている(両方でも、どちらか一方でも)	聞いたことはあるが、内容までは知らない(両方でも、どちらか一方でも)	どちらも初めて聞いた	無回答
16～19歳(n=36)	5.6%	19.4%	75.0%	0.0%
20～29歳(n=68)	8.8%	36.8%	52.9%	1.5%
30～39歳(n=105)	10.5%	47.6%	41.0%	1.0%
40～49歳(n=109)	10.1%	44.0%	45.9%	0.0%
50～59歳(n=164)	11.6%	53.7%	32.9%	1.8%
60～64歳(n=81)	16.0%	53.1%	29.6%	1.2%
65～74歳(n=181)	14.4%	51.4%	31.5%	2.8%
75歳以上(n=145)	6.9%	45.5%	39.3%	8.3%

成年後見制度、地域福祉権利擁護事業について、制度の内容まで知っている方はすべての年齢層で2割未満と低くなっており、制度等に対する知識の周知が必要であると考えられます。

特に、親を介護する年齢である40～50歳代、当事者になる可能性が徐々に高まる60歳代以上の方への周知が重要になります。

《クロス集計》 成年後見制度、地域福祉権利擁護事業についての認知度別 ×
暮らしの中での差別や偏見について

図表 成年後見制度、地域福祉権利擁護事業についての知識別暮らしの中での差別や偏見について

	あると感じて いる	感じたことは ないが、あると 思う	特に感じるこ とはない	無回答
制度の内容まで知っている(両方でも、どちらか一方でも)(n=98)	48.0%	26.5%	25.5%	0.0%
聞いたことはあるが、内容までは知らない(両方でも、どちらか一方でも)(n=422)	28.2%	42.9%	28.9%	0.0%
どちらも初めて聞いた(n=348)	29.6%	38.2%	31.3%	0.9%

成年後見制度、地域福祉権利擁護事業について、制度の内容まで知っている方では、暮らしの中での差別や偏見を感じる割合が高くなっています。反対に、どちらも初めて聞いた方では、差別や偏見を特に感じることはないと回答した割合が、制度について知っている方、聞いたことがある方に比べてわずかに高くなっています。

この結果から、制度に対する知識が高い人ほど、暮らしの中での差別や偏見を感じている傾向があることがわかります。

11. 差別や偏見を感じる機会や場所

(※10. ふだんの暮らしの中での高齢者や障害者への差別や偏見について「あると感じている」「感じたことはないが、あると思う」と回答した方)

《クロス集計》年齢別×暮らしの中での差別や偏見について

図表 年齢別暮らしの中での差別や偏見について

	教育の機会	仕事や収入	近所づきあい	地域の行事や集まり	店での扱いや店員の態度	まちかどでの人の視線	障害者の利用に配慮されていないこと	交通機関や建物が	行政職員の対応・態度	その他	無回答
16～19歳 (n=30)	26.7%	36.7%	13.3%	10.0%	20.0%	73.3%	43.3%	6.7%	0.0%	0.0%	
20～29歳 (n=49)	34.7%	53.1%	20.4%	12.2%	20.4%	44.9%	61.2%	16.3%	0.0%	0.0%	
30～39歳 (n=80)	36.3%	67.5%	16.3%	12.5%	27.5%	65.0%	65.0%	20.0%	2.5%	1.3%	
40～49歳 (n=83)	27.7%	66.3%	16.9%	13.3%	19.3%	55.4%	62.7%	20.5%	1.2%	3.6%	
50～59歳 (n=120)	22.5%	67.5%	22.5%	14.2%	18.3%	49.2%	56.7%	12.5%	2.5%	0.8%	
60～64歳 (n=56)	21.4%	53.6%	28.6%	19.6%	16.1%	46.4%	58.9%	10.7%	0.0%	7.1%	
65～74歳 (n=119)	16.8%	47.1%	21.8%	24.4%	8.4%	26.9%	45.4%	20.2%	3.4%	6.7%	
75歳以上 (n=80)	6.3%	15.0%	22.5%	16.3%	13.8%	17.5%	40.0%	11.3%	5.0%	27.5%	

年齢層が低いほど、まちかどでの人の視線の割合が高い傾向がみられます。また、20～64歳までは、半数以上の方が仕事や収入、交通機関や建物で差別や偏見を感じています。(網かけ参照)

《クロス集計》 居住地域別 × 暮らしの中での差別や偏見について

図表 居住地域別暮らしの中での差別や偏見について

	教育の機会	仕事や収入	近所づきあい	地域の行事や集まり	店での扱いや店員の態度	まちかどでの人の視線	交通機関や建物が障害者の利用に配慮されていないこと	行政職員の対応・態度	その他	無回答
蛇田地区 (n=63)	28.6%	50.8%	15.9%	11.1%	23.8%	33.3%	60.3%	19.0%	0.0%	9.5%
湊・渡波地区 (n=93)	22.6%	51.6%	23.7%	12.9%	11.8%	48.4%	50.5%	10.8%	3.2%	3.2%
稲井地区 (n=32)	21.9%	62.5%	21.9%	18.8%	18.8%	56.3%	68.8%	9.4%	0.0%	3.1%
荻浜地区 (n=15)	20.0%	33.3%	60.0%	33.3%	26.7%	33.3%	46.7%	0.0%	0.0%	13.3%
その他の石巻地区 (n=220)	25.5%	55.9%	20.9%	11.8%	20.9%	45.9%	60.0%	16.8%	2.3%	4.1%
河北地区 (n=38)	18.4%	47.4%	18.4%	23.7%	7.9%	44.7%	26.3%	10.5%	2.6%	10.5%
雄勝地区 (n=30)	23.3%	60.0%	16.7%	23.3%	13.3%	50.0%	33.3%	33.3%	0.0%	10.0%
河南地区 (n=51)	17.6%	41.2%	17.6%	23.5%	15.7%	41.2%	47.1%	23.5%	3.9%	11.8%
桃生地区 (n=28)	21.4%	50.0%	25.0%	28.6%	10.7%	42.9%	60.7%	17.9%	7.1%	3.6%
北上地区 (n=22)	18.2%	59.1%	18.2%	18.2%	9.1%	31.8%	63.6%	13.6%	0.0%	0.0%
牡鹿地区 (n=23)	13.0%	43.5%	8.7%	17.4%	17.4%	39.1%	52.2%	4.3%	4.3%	17.4%

地区別に差別や偏見を感じている割合をみると、荻浜地区では、近所づきあいや地域の行事や集まりで、桃生地区では、地域の行事や集まりで、雄勝地区では、行政職員の対応・態度の割合が他の地区にくらべ、高くなっています。(網かけ参照)

Ⅱ-4. ボランティアについて

13. 保健福祉に関連するボランティア活動への関心

《クロス集計》年齢別×ボランティア活動への関心

図表 年齢別ボランティア活動への関心

	興味がある	興味はない	無回答
16～19 歳(n=36)	36.1%	61.1%	2.8%
20～29 歳(n=68)	38.2%	61.8%	0.0%
30～39 歳(n=105)	39.0%	59.0%	1.9%
40～49 歳(n=109)	47.7%	51.4%	0.9%
50～59 歳(n=164)	54.3%	43.9%	1.8%
60～64 歳(n=81)	65.4%	29.6%	4.9%
65～74 歳(n=181)	65.2%	27.6%	7.2%
75 歳以上(n=145)	51.0%	32.4%	16.6%

年齢層が高くなるにつれ、ボランティア活動に興味を持つ傾向がみられます。

《クロス集計》手助けの経験別×ボランティア活動への関心

手助けの経験の別ボランティア活動への関心

	興味がある	興味はない	無回答
手助けをしたことがある (n=420)	67.9%	29.0%	3.1%
何もしていない (n=437)	40.0%	56.1%	3.9%

この1年間に高齢者や障害者、子ども連れの方などを手助けした経験がある方は、何もしていない方に比べて、保健福祉に関連するボランティア活動に興味を持っています。

14. 保健福祉に関連するボランティア団体の活動や情報への関心

《クロス集計》ボランティア活動への関心別×ボランティア団体の活動や情報への関心

図表 ボランティア活動への関心別ボランティア団体の活動や情報への関心

	ぜひ知りたい	特に知りたいとは思わない	無回答
興味がある(n=467)	74.3%	23.8%	1.9%
興味はない(n=376)	8.5%	90.7%	0.8%

保健福祉に関連するボランティア活動に興味がある方では、保健福祉に関連するボランティア団体の活動や情報について7割以上が知りたいと感じています。反対に、ボランティア活動に興味がない方のほとんどが、知りたいとは思わないと考えています。

17. これまで経験した活動のきっかけ

(※15. 地域でのさまざまな活動やボランティア活動の経験について「現在、活動している」「以前、活動していたことがあるが、現在はしていない」と回答した方)

《クロス集計》年齢別×地域活動、ボランティア活動のきっかけ

図表 年齢別地域活動、ボランティア活動のきっかけ

	地域をより住みやすいものにしたいため	社会や人のためになる活動がしたいから	持ち回りの当番制となっていたから	友人に誘われたから	知識や技術を身につけたいから	新たに友人・知人を得たいから	その他	無回答
16～19歳 (n=14)	0.0%	28.6%	14.3%	21.4%	21.4%	0.0%	35.7%	0.0%
20～29歳 (n=19)	15.8%	36.8%	21.1%	26.3%	21.1%	10.5%	31.6%	0.0%
30～39歳 (n=31)	29.0%	25.8%	19.4%	25.8%	6.5%	3.2%	29.0%	0.0%
40～49歳 (n=43)	46.5%	25.6%	34.9%	7.0%	11.6%	9.3%	11.6%	0.0%
50～59歳 (n=68)	50.0%	32.4%	30.9%	7.4%	4.4%	10.3%	8.8%	5.9%
60～64歳 (n=31)	51.6%	32.3%	22.6%	25.8%	16.1%	9.7%	3.2%	3.2%
65～74歳 (n=75)	66.7%	46.7%	13.3%	5.3%	10.7%	9.3%	8.0%	2.7%
75歳以上 (n=50)	66.0%	40.0%	18.0%	10.0%	8.0%	14.0%	8.0%	2.0%

年齢が上がるにつれ、地域をより住みやすいものにしたいためと回答した方の割合が高くなる傾向がみられます。(網かけ参照)

30歳代以下では、友人からの誘いや、自身の知識や技術を身につけたいといったことも、活動のきっかけとなっているようです。(網かけ参照)

18. 地域活動、ボランティア活動をしない理由

(※15. 地域でのさまざまな活動やボランティア活動の経験について「活動したことがない」と回答した方)

《クロス集計》年齢別×地域活動、ボランティア活動をしない理由

図表 年齢別地域活動、ボランティア活動をしない理由

	仕事をもっているのに時間がない	どのような活動があるのか地域活動・ボランティア活動に関する情報がない	活動したい気持ちはあるが、きっかけがつかめない	活動する気持ちはない	自分の趣味や自由な時間を優先したいから	興味もてる活動がみつからない	現在の活動内容に賛同できないから	その他	無回答
16～19 歳 (n=22)	9.1%	36.4%	13.6%	9.1%	9.1%	18.2%	0.0%	0.0%	4.5%
20～29 歳 (n=49)	44.9%	12.2%	14.3%	8.2%	6.1%	4.1%	0.0%	2.0%	8.2%
30～39 歳 (n=74)	50.0%	13.5%	9.5%	0.0%	5.4%	5.4%	0.0%	6.8%	9.5%
40～49 歳 (n=65)	52.3%	13.8%	13.8%	0.0%	3.1%	1.5%	1.5%	0.0%	13.8%
50～59 歳 (n=94)	47.9%	10.6%	9.6%	5.3%	3.2%	3.2%	1.1%	7.4%	11.7%
60～64 歳 (n=50)	34.0%	18.0%	14.0%	8.0%	8.0%	0.0%	0.0%	6.0%	12.0%
65～74 歳 (n=99)	17.2%	12.1%	12.1%	9.1%	10.1%	5.1%	4.0%	12.1%	18.2%
75 歳以上 (n=90)	7.8%	6.7%	10.0%	14.4%	5.6%	6.7%	0.0%	31.1%	17.8%

20～64 歳までの方では、仕事を主な理由に挙げています。また、16～19 歳では、約 4 割の方が地域活動・ボランティア活動に関する情報がないことを理由に挙げています。

年齢層が低い方では、ボランティアに対する興味も低い傾向もみられることから、若い方や仕事を持っている方でも、興味を持って積極的に参加できるような仕組みづくりが必要であると考えられます。(網かけ参照)

Ⅱ－５．安全な暮らしについて

19. 身の回りの安全対策について

《クロス集計》 居住地区別 × 身の回りの安全対策について

図表 居住地区別身の回りの安全対策について

	行っている	行っていない	無回答
蛇田地区(n=87)	37.9%	57.5%	4.6%
湊・渡波地区(n=136)	33.1%	65.4%	1.5%
稲井地区(n=46)	47.8%	50.0%	2.2%
萩浜地区(n=21)	42.9%	57.1%	0.0%
その他の石巻地区(n=299)	48.2%	49.2%	2.7%
河北地区(n=52)	38.5%	55.8%	5.8%
雄勝地区(n=38)	34.2%	65.8%	0.0%
河南地区(n=77)	51.9%	45.5%	2.6%
桃生地区(n=52)	28.8%	67.3%	3.8%
北上地区(n=40)	20.0%	77.5%	2.5%
牡鹿地区(n=38)	42.1%	55.3%	2.6%

湊・渡波地区、雄勝地区、桃生地区、北上地区では、家庭での身の回りの安全対策について、行っていない方の割合が、全体の割合を大きく上回っています。(網かけ参照)

20. 災害時の避難場所について

《クロス集計》居住地区別×災害時の避難場所

図表 居住地区別災害時の避難場所

	知っている	知らない	無回答
蛇田地区(n=87)	78.2%	21.8%	0.0%
湊・渡波地区(n=136)	79.4%	17.6%	2.9%
稲井地区(n=46)	73.9%	23.9%	2.2%
荻浜地区(n=21)	95.2%	0.0%	4.8%
その他の石巻地区(n=299)	80.6%	18.4%	1.0%
河北地区(n=52)	46.2%	46.2%	7.7%
雄勝地区(n=38)	89.5%	7.9%	2.6%
河南地区(n=77)	79.2%	19.5%	1.3%
桃生地区(n=52)	82.7%	15.4%	1.9%
北上地区(n=40)	72.5%	25.0%	2.5%
牡鹿地区(n=38)	89.5%	10.5%	0.0%

ほとんどの地区では、災害時の避難場所について、知っている方の割合が7割以上と高くなっていますが、河北地区では、他の地区にくらべ、半数以下と低くなっています。(網かけ参照)

Ⅱ-6. これからの福祉環境について

22. 保健や福祉に関する心配事の相談相手、相談先

《クロス集計》年齢別×保健や福祉に関する心配事の相談相手、相談先

図表 年齢別保健や福祉に関する心配事の相談相手、相談先

	同居している家族	離れて暮らしている家族	隣近所の人	知人・友人	地区の民生委員・児童委員	行政機関の相談窓口	社会福祉協議会
16～19歳(n=36)	66.7%	5.6%	8.3%	41.7%	2.8%	11.1%	2.8%
20～29歳(n=68)	64.7%	22.1%	0.0%	51.5%	1.5%	22.1%	11.8%
30～39歳(n=105)	65.7%	23.8%	6.7%	45.7%	2.9%	41.9%	4.8%
40～49歳(n=109)	54.1%	11.0%	8.3%	36.7%	11.0%	44.0%	11.0%
50～59歳(n=164)	55.5%	11.0%	10.4%	30.5%	9.1%	46.3%	22.0%
60～64歳(n=81)	53.1%	11.1%	6.2%	23.5%	17.3%	35.8%	22.2%
65～73歳(n=181)	56.9%	20.4%	14.4%	16.6%	22.7%	30.4%	19.3%
75歳以上(n=145)	62.1%	24.1%	17.9%	6.9%	24.1%	17.2%	12.4%

	保健や福祉サービスの事業者	NPOやボランティア団体(※)	かかりつけの医療機関	相談せずに自分で解決	わからない	その他	無回答
16～19歳(n=36)	2.8%	2.8%	11.1%	8.3%	22.2%	2.8%	0.0%
20～29歳(n=68)	16.2%	1.5%	22.1%	5.9%	5.9%	0.0%	1.5%
30～39歳(n=105)	16.2%	4.8%	18.1%	3.8%	2.9%	0.0%	1.0%
40～49歳(n=109)	22.9%	4.6%	23.9%	5.5%	6.4%	1.8%	0.9%
50～59歳(n=164)	22.0%	6.1%	31.7%	3.0%	4.3%	0.0%	3.0%
60～64歳(n=81)	16.0%	3.7%	35.8%	2.5%	4.9%	2.5%	1.2%
65～73歳(n=181)	12.2%	6.6%	39.8%	4.4%	1.7%	0.6%	2.2%
75歳以上(n=145)	15.9%	2.8%	39.3%	3.4%	4.1%	0.7%	3.4%

※保健や福祉にかかわる活動をしているNPO（公益活動を行う非営利の組織）やボランティア団体

すべての年齢で、同居している家族を相談相手にしている方の割合が最も高くなっています。

年齢が低い層では、知人・友人の割合も高く、年齢が上の層では、行政機関の相談窓口や行政機関の相談窓口、かかりつけの医療機関の割合が高くなる傾向がみられます。（網かけ参照）

23. 今後の福祉の担い手としてふさわしい人、団体

《クロス集計》年齢別×今後の福祉の担い手としてふさわしい人、団体

図表 年齢別今後の福祉の担い手としてふさわしい人、団体

	行政機関	地域住民(隣近所)	保健や福祉サービスの事業者	社会福祉協議会	NPOボランティア団体(※)	民生委員・児童委員	わからない	その他	無回答
16～19歳 (n=36)	27.8%	33.3%	44.4%	19.4%	41.7%	19.4%	19.4%	2.8%	0.0%
20～29歳 (n=68)	50.0%	35.3%	41.2%	35.3%	30.9%	20.6%	13.2%	5.9%	0.0%
30～39歳 (n=105)	48.6%	39.0%	41.9%	30.5%	34.3%	7.6%	11.4%	2.9%	1.9%
40～49歳 (n=109)	47.7%	32.1%	48.6%	37.6%	45.9%	18.3%	11.0%	0.9%	0.0%
50～59歳 (n=164)	51.8%	48.2%	37.8%	35.4%	29.9%	16.5%	12.8%	2.4%	1.8%
60～64歳 (n=81)	44.4%	43.2%	22.2%	38.3%	29.6%	25.9%	16.0%	0.0%	3.7%
65～74歳 (n=181)	47.0%	44.8%	28.7%	33.1%	29.3%	37.6%	12.7%	0.6%	3.3%
75歳以上 (n=145)	35.9%	43.4%	33.1%	33.8%	20.0%	41.4%	11.7%	0.7%	3.4%

※保健や福祉にかかわる活動をしているNPO（公益活動を行う非営利の組織）やボランティア団体

年齢が低い層では、年齢が高い層に比べて、NPOやボランティア団体と回答した割合が高い傾向がみられます。反対に、年齢が高い層では、年齢が低い層に比べて、民生委員・児童委員と回答した方の割合が高い傾向がみられます。(網かけ参照)

24. 市の保健福祉施策として重要な取組み

《クロス集計》年齢別×市の保健福祉施策としての重要な取組み

図表 年齢別市の保健福祉施策としての重要な取組み

※全体の結果の上位5位

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
	(※) 定制社 を度会 図の保 る安障	す口で所身 をきで近 増る相な や窓談場	さ供る祉保 せるを情に健 るを情に健 充報関や 実提す福	み合域身災緊 をうで近害急 作仕助な時 る組け地に や	をフの公 進リバ共 めーリの る化ア場
16～19歳 (n=36)	27.8%	27.8%	30.6%	30.6%	47.2%
20～29歳 (n=68)	35.3%	38.2%	39.7%	11.8%	27.9%
30～39歳 (n=105)	52.4%	37.1%	37.1%	24.8%	21.9%
40～49歳 (n=109)	53.2%	44.0%	42.2%	27.5%	22.0%
50～59歳 (n=164)	56.1%	50.0%	33.5%	25.6%	14.6%
60～64歳 (n=81)	59.3%	51.9%	35.8%	32.1%	8.6%
65～74歳 (n=181)	50.8%	45.3%	33.7%	43.6%	10.5%
75歳以上 (n=145)	45.5%	49.7%	31.0%	29.0%	13.1%

※社会保障制度(医療保険制度・年金制度・介護保険制度など)の安定を図る

年齢が低い層では、年齢が高い層に比べて、公共の場のバリアフリー化を進めると回答した割合が高く、社会保障制度の安定を図ると回答した割合が低い傾向がみられます。一方、年齢が高い層では、年齢が低い層に比べて、身近な場所で相談できる窓口を増やすと回答した割合が高い傾向がみられます。また、65～74歳の方では、緊急時や災害時に身近な地域で助け合う仕組みを作ると回答した割合が他の年齢に比べて高くなっています。(網かけ参照)

《クロス集計》暮らしやすさ別×市の保健福祉施策としての重要な取組み

図表 暮らしやすさ別市の保健福祉施策としての重要な取組み

※全体の結果の上位5位

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
	(※) 定制社 を度会 図の保 る安障	す口で所身 をきで近 増る相な や窓談場	さ供る祉保 せるを情に健 るを情に健 充報関や 実提す福	み合域身災緊 をうで近害急 作仕助な時 る組け地に や	をフの公 進リバ共 めーリの る化ア場
暮らしやすい (n=494)	48.4%	47.2%	36.6%	32.6%	17.2%
暮らしにくい (n=252)	54.4%	40.5%	35.7%	28.2%	21.4%

※社会保障制度(医療保険制度・年金制度・介護保険制度など)の安定を図る

暮らしにくいと感じる

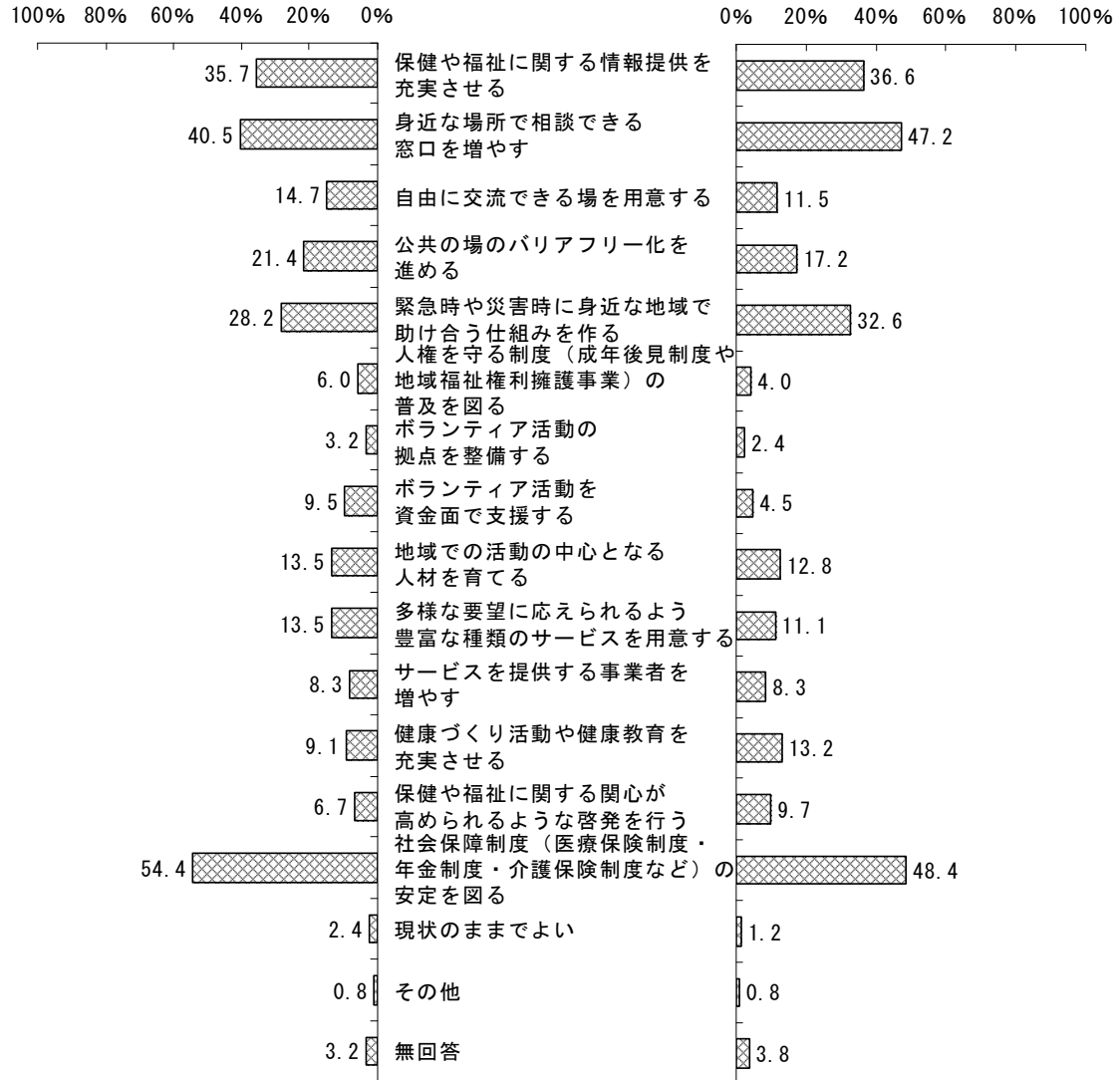
「暮らしにくいまちだと思う」、
「どちらかという暮らしにくいまちだと思う」

n=252

暮らしやすいと感じる

「とても暮らしやすいまちだと思う」、
「どちらかという暮らしやすいまちだと思う」

n=494



暮らしやすいと感じている方、暮らしにくいと感じている方ともに、同じような傾向がみられ、社会保障制度の安定や相談体制・情報提供の充実、安全・安心について重要であると考えられています。

Ⅱ－7. 地域の暮らしについて

25. 石巻市は暮らしやすいまちか

《クロス集計》 居住地区別 × 暮らしやすさ

図表 居住地区別暮らしやすさ

	暮らしやすい(※1)	暮らしにくい(※2)	無回答
蛇田地区(n=87)	57.5%	27.6%	14.9%
湊・渡波地区(n=136)	64.7%	21.3%	14.0%
稲井地区(n=46)	54.3%	30.4%	15.2%
荻浜地区(n=21)	57.1%	23.8%	19.0%
その他の石巻地区(n=299)	63.5%	23.1%	13.4%
河北地区(n=52)	42.3%	36.5%	21.2%
雄勝地区(n=38)	36.8%	34.2%	28.9%
河南地区(n=77)	41.6%	29.9%	28.6%
桃生地区(n=52)	53.8%	28.8%	17.3%
北上地区(n=40)	37.5%	52.5%	10.0%
牡鹿地区(n=38)	39.5%	50.0%	10.5%

※1 とても暮らしやすいまちだと思う+どちらかという暮らしやすいまちだと思う

※2 暮らしにくいまちだと思う、どちらかという暮らしにくいまちだと思う

北上地区、牡鹿地区で「暮らしにくい」と回答した方の割合が高くなっています。(網かけ参照)

《クロス集計》 年齢別 × 暮らしやすさ

図表 年齢別暮らしやすさ

	暮らしやすい(※1)	暮らしにくい(※2)	無回答
16～19歳(n=36)	52.8%	30.6%	16.7%
20～29歳(n=68)	38.2%	45.6%	16.2%
30～39歳(n=105)	41.0%	42.9%	16.2%
40～49歳(n=109)	55.0%	30.3%	14.7%
50～59歳(n=164)	57.9%	28.7%	13.4%
60～64歳(n=81)	63.0%	24.7%	12.3%
65～74歳(n=181)	58.6%	24.3%	17.1%
75歳以上(n=145)	63.4%	14.5%	22.1%

※1 とても暮らしやすいまちだと思う+どちらかという暮らしやすいまちだと思う

※2 暮らしにくいまちだと思う+どちらかという暮らしにくいまちだと思う

20～30代の方では、「暮らしにくい」と感じている方の割合が、他の年代に比べて高くなっています。(網かけ参照)

《主な意見分類》

図表 主な意見分類（件数）

	自然	郷土への愛着	安全・安心	生活環境	人間関係
暮らしやすい	110	53	35	146	43
暮らしにくい	5	0	5	177	5

*分類ごとの件数は、明確な分類のできない意見もあるため、おおよその件数である。

◎「自然」

「自然(山・海・川等)が豊か」「穏やかな気候」「新鮮で豊富な食材」「新鮮な空気」といった、自然環境を評価する意見多い。

◎「郷土への愛着」

「生まれ育ったまちだから(他と比較できない)」「長年住んでいるから」といった、郷土への愛着を評価する意見が多い。

◎「安全・安心」

「災害が少ない」「平和」「助け合える環境にある」といった意見が挙げられている一方で、「治安が悪い」「危険なところがある」「地震が多い」「地域で助け合う取り組みが不十分」「災害時、石巻市全体が広域になり、情報が伝わりにくいと思う」といった意見も挙げられている。

◎「生活環境」

「施設の立地・充実(医療、商業施設等)」「道路・交通」「子ども・高齢者・障がい者支援」「行政」「就労」に関する評価ならびに不満が多い。

◎「人間関係」

「周囲の人があたたかい(親切)」「近所での声かけがある」「近所との付き合いが保たれている」「町内会の縦横の連絡が良い」「困ったことがあると助けてくれる」といった意見が挙げられている一方で、「地域の人々の偏見が強い」「閉鎖的」「他の土地から移住してくる人を快く受け入れない」「近所の人と気軽に付き合い出来ない」「助け合い協力し、ゆずる心の豊かさが少しほしい」といった意見も挙げられている。